

科目名	和声学Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	岡部 富士夫		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>「授業の目的・ねらい」 和声学Ⅰで学んだ基礎をもとに和声学Ⅱでは対位法を中心に学習します。対位法は原語ではContra Punctus(Punctus Contra Punctus)の意味であり、広義には旋律対旋律という意味です。このように、旋律対旋律の形成は音楽の本質として現代まで伝承され、現代では単に作曲技法に留まらず多声部音楽を理解する上で欠くことのできない学習です。</p> <p>「授業の内容の概要」 はじめは和声学の不足部分を補い、旋律対旋律の初歩の書き方から学びます。</p>		
達成目標	<p>「授業修了時の達成度」 二声対位法の仕組みを理解し、自由な発想で書ける事を目標とします。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①定旋律に対して適切な対旋律が書ける。 ②1対自由まで理解している。 ③カノンやフーガの基礎を理解している。</p>		
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	試験80%、平常点20%
教科書	「対位法」音楽之友社		
参考書	なし		
学生への要望	音楽の専門教科で特に難解であるため、復習が大切であり、実習が大切です。		
オフィスタイム	水曜日授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	対位法の定義	対位法とは定旋律と規範的対旋律の協唱である事を学	0
2	定旋律と対旋律①	対位法と音楽の成り立ちについて。 定旋律と対旋律について。	0
3	定旋律と対旋律②	定旋律の性格とその形成について。	0
4	定旋律と対旋律③	対旋律の形成と和声的関連性について。 非和声音と旋律動向について。	0
5	定旋律と対旋律④	定旋律と対旋律との和声的関連性について。	0
6	定旋律と対旋律⑤	対旋律を創るにあたって留意点について。 アクセント旋律動向について。	0
7	定旋律と対旋律⑥	和声的動向、結尾等の形成について。	0
8	二分音符対位法①	二声対位法を実際に創り、定旋律と対旋律の旋律動向を学習する。	0
9	二分音符対位法②	二分音符対位法を実習和声で学習した四声体和声連結を参考にして。	0
10	二分音符対位法③	バスとソプラノにそれぞれ対旋律を創る実習を行う。	0
11	二分音符対位法④	バスとソプラノにそれぞれ対旋律を創る実習を行う。	0
12	四分音符対位法①	旋律動向において非和声音の使い方を理解し、対旋律の音楽的動向と和声との関係について。	0
13	四分音符対位法②	四分音符対位法の実習。	0
14	四分音符対位法③	四分音符対位法の実習和声的動向において音楽的禁則を学習する。	0
15	移勢対位法	移勢対位法についての説明と分析。	0

科目名	作曲法	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	岡部 富士夫		
開講期	通年		
授業概要	<p>「授業の目的・ねらい」 楽式アナリゼや和声学、対位法の学習を踏まえて作品制作に取り組みます。この事は実際の作品理解に大きく役立つものです。 「授業全体の内容の概要」 楽器論、編曲法についても学び、大きな視点から演奏の手助けとなるような音楽経験をします。</p>		
達成目標	<p>「授業修了時の到達目標」 作品の制作過程を知る事により、演奏の手助けとなるような音楽経験をします。 【履修カルテの評価項目】 ①和声学や対位法についての基礎知識がある。 ②美しいメロディーを作ることができる。 ③楽器や編曲法について理解している。</p>		
受講資格	音楽科 2年	成績評価 方法	作品評価80%、平常点20%
教科書	「学生のための和声の要点」 サーベル社		
参考書	対位法、和声学		
学生への要望	作曲を専門にする事ではなく、音楽理解において必要な事柄なので積極的に取り組んで下さい。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	特殊和音 1 ドッペルドミナント	和声学（1年次）では時間の関係で進度が限られており、ここでは実際に役立つ様々な和音の説明と用法について学習する。 1としてドッペルドミナントの説明。	0
2	特殊和音 2 副V度	副V度の考え方と用法。実際の例で説明。簡単な旋律を作り、副V度を使ってみる。基本的にドッペルドミナントと副V度の使用について理解をする。 ここでは1年次の全調カデンツが役に立つはずである。	0
3	特殊和音 3 準固有和音	準固有和音と借用和音について例を挙げて説明。響き、用法などを会得する。楽曲の様式感とも関わることなので効果的に活用することを学ぶ。 またここでは終始法、カデンツの原理について再度学ぶ。	0
4	特殊和音 4 ナボリのⅡ ドリアのⅣ	ナボリのⅡ、ドリアのⅣについて説明。用法について学ぶ。実際の楽曲から例を取り理解を深める。 また実際に旋律を作り、使ってみる。	0
5	特殊和音 5 フックスのⅤ ラモーの五六	フックスのⅤ、ラモーの五六について説明。用法について学ぶ。実際の楽曲から例を取り理解を深める。 また実際に旋律を作り、使ってみる。	0
6	特殊和音のまとめ1	様々な特殊和音を理解し、自由に使える訓練をする。 簡単なピアノ曲を作り、応用してみる。	0
7	特殊和音のまとめ2	様々な特殊和音を理解し、自由に使える訓練の2。 簡単なピアノ曲を作り、応用してみる。	0
8	特殊和音のまとめ3	前2授業の作品を完成させる。提出、評価。	0
9	変奏 1	変奏は作曲学上最も大事な技術の一つである。変奏の実際について様々な例から学ぶ。 実技を通して数多くの変奏を試みる。	0
10	変奏 2	変奏の実際についての続き。 数多くの変奏を試みることによってより理解を深める。	0
11	変奏曲 1	簡単な変奏曲の作曲。テーマは自作でも既成の楽曲でも良いが、無理のない自然な変奏が出来るよう心がける。	0
12	変奏曲 2	前週の作業の続きを行う。	0
13	変奏曲 3	前週の作業の続きを行う。	0
14	変奏曲 4	変奏曲の完成。提出、評価。	0
15	管弦楽法	管弦楽法への導入。 合奏の諸形態、響きについての説明などを行いⅣ期に行う管弦楽法への導入とする。	0
16	管弦楽法、楽器論①	Ⅳ期は主に管弦楽法を学び、楽曲の編曲を行う。 楽器論①としてフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットなど木管楽器の特性について学ぶ。	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
17	管弦楽法、楽器論②	楽器論②としてホルン、トランペット、トロンボーン、チューバなど金管楽器の特性について学ぶ。素材、奏法など。		0
18	管弦楽法、楽器論③	楽器論③としてヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスなど弦楽器の特性について学ぶ。素材、奏法など。		0
19	管弦楽法、楽器論④	ティンパニ、バスドラム、スネアドラム、その他打楽器は種類が多い。その中から主にオーケストラや吹奏楽で用いられる打楽器について学ぶ。		0
20	管弦楽法、楽器論⑤	特殊楽器や打楽器などについて補足説明。		0
21	管弦楽法	各楽器の組み合わせ方や管楽器と弦楽器の音量の違い、バランスなど実際の管弦楽作品を参考にしながら研究する。		0
22	管弦楽法、編曲①	ソナチネなどの簡単なピアノ曲を木管アンサンブルやその他の室内楽作品としてアレンジする。学生間でアンサンブルできる編成が望ましい。		0
23	管弦楽法、編曲②	授業の中で実際に編曲する。楽器の使い方、技術面の特性など編曲しながら考える。一人ひとりの疑問に答え、添削も行う。以下3回にわたりこの作業を続ける。作業①		0
24	編曲②	前週の続き作業② 質問を受けながら作ってゆく。		0
25	編曲③	前週の続き作業③ 質問を受けながら作ってゆく。		0
26	編曲④	編曲の仕上げを行い、パート譜の作成をする。		0
27	編曲のまとめ	数名の作品を選び、学生同士で演奏し、それぞれの作品について聴きあい、批評しあう。提出、評価。		0
28	歌曲①	歌曲は無駄がなく、もっとも技術を要する。言葉を伴うことから詩句の解釈や日本語のイントネーションを吟味し、必然性のあるメロディを作成することが要求される。		0
29	歌曲②	それぞれ選んだ詩について歌曲を作成。これを前回同様2回にわたって行う。作業①		0
30	歌曲③	作業②歌曲の仕上げ、清書して完成させる。提出、評価。		0

平成30年度

科目名	指揮法	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	岡部 富士夫		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>「授業の目的・ねらい」 指揮法は単に指揮の仕方学ぶだけではなく表現力や楽曲の分析、音楽に対してどう向き合うかを学ぶものです。 「授業全体の内容の概要」 音楽を正しく理解し表現する力を習得します。合唱やオーケストラの指揮の実際を学びます。</p>		
達成目標	<p>「授業修了時の到達目標」 楽曲を分析し、正しく伝える技術を身につけます。 【履修カルテの評価項目】 ①図形を正しく振る事ができる。 ②作品を正しく解釈することができる。 ③自分の意思を明確に伝えられる。</p>		
受講資格	音楽科 2年	成績評価 方法	実技試験 80%、平常点 20%
教科書	斉藤秀雄著「指揮法教程」音楽之友社		
参考書	なし		
学生への要望	オーケストラや合唱を指揮するということは作品をどれだけ知っているかにかかります。広い視野から音楽に向き合う姿勢が大事です。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	指揮とは何か、指揮者の必要性とは何か、について学	0
2	基礎訓練①	叩きは指揮の基本である。平均運動、加速、減速について練習する。	0
3	基礎訓練②	叩きと各拍子について。図形について。	0
4	ウェーバー・ヴァリエーション①	ウェーバーのヴァリエーションを教材として予備、平均運動の練習。	0
5	ウェーバー・ヴァリエーション②	曲中にあるフェルマータ、rit. やcrescendoの振り方についての練習、強弱やアインザッツについての練習。	0
6	あかるい日の歌Ⅱ	変拍子、8分の8、8分の7、8分の5などの振り方、分割、省略について。	0
7	ハイドン・アレグロ ①	ハイドンのアレグロを教材に打法の練習。	0
8	ハイドン・アレグロ②	裏拍の指示の仕方、テンポの速い曲への対応の仕方。	0
9	ベートーヴェン交響曲第1番 ①	ベートーヴェンの交響曲第1番の第1楽章序奏の部分を振る。スコアの見方について学ぶ。	0
10	ベートーヴェン交響曲第1番 ②	分割の仕方、楽器の特性、音色の変化など。	0
11	ベートーヴェン交響曲第1番 ③	休符の処理、tuttiのアインザッツ。各パートへのアインザッツ。	0
12	ベートーヴェン交響曲第1番④	音源を聴きイメージを作る。弓、プレスと棒の関係。	0
13	ベートーヴェン交響曲第1番⑤	全体を振る。批評しあう。	0
14	ベートーヴェン交響曲第1番⑥	全体を振る。批評しあう。	0
15	ベートーヴェン交響曲第1番 ⑦	指揮法のまとめ。	0

平成30年度

科目名	声乐Ⅱ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	磯部 哲夫		
開講期	通年		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。</p>		
達成目標	<p>〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕</p> <p>正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。</p> <p>①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音が出来たか。 ③感性を生かした歌曲表現が出来たか。</p>		
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	平常点10点 実技試験90点
教科書	イタリア古典歌曲集 ドイツ歌曲集 日本歌曲集		
参考書	特になし		
学生への要望	1年次で発声法の基本をしっかりと習得すること。発声を土台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。		
オフィスタイム	月・水曜日のV限、木曜日のII・IV限 No.1音楽科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

科目名	声楽Ⅱ（主科）		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	割谷 由美子			
開講期	通年			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。</p> <p>【授業修了時の到達課題（到達目標）】</p> <p>正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌曲表現ができたか。</p>			
達成目標	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。</p> <p>【授業修了時の到達課題（到達目標）】</p> <p>正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌曲表現ができたか。</p>			
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	平常点10点 実技試験90点	
教科書	イタリア古典歌曲集 ドイツ歌曲集 日本歌曲集			
参考書	特になし			
学生への要望	1年次で発声法の基本をしっかりと習得すること。発声を土台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。			
オフィスタイム	月火 レッスン室No.1			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、各個人、声種に合ったドイツ歌曲（モーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームス、R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルク）の選択、評価方法について説明。	0
2	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・1	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング	0
3	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・2	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング	0
4	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・3	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
5	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・4	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング		0
6	ドイツ歌曲（ロマン派）・1	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する		0
7	ドイツ歌曲（ロマン派）・2	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する		0
8	ドイツ歌曲（ロマン派）・3	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する		0
9	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・1	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する		0
10	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・2	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する		0
11	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・3	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する		0
12	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・1	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する		0
13	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・2	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する		0
14	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・3	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する		0
15	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・4	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する		0
16	後期ガイダンス	前期試験の反省を踏まえたレッスンの進め方、定期演奏会オーディション、卒業試験に向けての楽曲選択、評価方法についての説明。		0
17	定期演奏会オーディションの楽曲・1	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン		0
18	定期演奏会オーディションの楽曲・2	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン		0
19	オペラアリア・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する		0
20	オペラアリア・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
21	オペラアリア・3	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する	0
22	オペラアリア・4	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する	0
23	日本歌曲・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択した日本歌曲の歌唱法を解説する ③発声を生かした日本語のアーティキュレーションを解説する	0
24	日本歌曲・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する	0
25	卒業試験曲・1	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する	0
26	卒業試験曲・2	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する	0
27	卒業試験曲・3	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する	0
28	卒業試験曲・4	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する	0
29	卒業試験曲・5	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する	0
30	卒業試験曲・6	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する	0

科目名	声楽Ⅱ（副科）		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修
担当教員	磯部 哲夫			
開講期	通年			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①発声法・・・腹式呼吸、共鳴の修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語またはドイツ語の発音の修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>①1年次で修得した発声法を活かし、各原語に合った歌唱法を実践する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。</p>			
達成目標	<p>〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕</p> <p>正しい発声、各原語による歌唱法を修得し、歌唱表現ができるようにする。</p> <p>①横隔膜を広げ、下腹部で支える腹式呼吸で息を流し声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができただか。 ③常に頭部前方へ息を流し、言葉の発音を結びつけ歌唱しているか。</p>			
受講資格	音楽科2年	成績評価 方法	平常店10点 実技試験90点	
教科書	イタリア古典歌曲集Ⅰ、Ⅱ イタリア近代歌曲 ドイツ歌曲集 日本歌曲集			
参考書	特になし			
学生への要望	レッスンでの指摘を把握し、次回には改善が見られるように、日々の練習に励むこと。			
オフィスタイム	月・水曜日のV限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、ローテーション、評価方法について説明		0
2	日本歌曲・1	①発声法・・・1年次の復習 ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
3	日本歌曲・2	①発声法・・・共鳴法と頭声についての解説Ⅰ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
4	日本歌曲・3	①発声法・・・共鳴法と頭声についての解説Ⅱ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
5	日本歌曲・4	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅰ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
6	日本歌曲・5	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅱ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
7	日本歌曲・6	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅲ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
8	日本歌曲・7	①発声・・・共鳴法と頭声の習得Ⅳ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
9	日本歌曲・8	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅴ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
10	日本歌曲・9	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅵ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
11	日本歌曲・10	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅶ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
12	日本歌曲・11	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅷ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
13	日本歌曲・12	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅷ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
14	日本歌曲・13	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅷ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説		0
15	前期まとめ	①発声法のまとめ ②日本語発音のまとめ ③日本歌曲の楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ		0
16	後期ガイダンス	前期試験の反省、後期レッスンの進め方、評価方法についての説明		0
17	各原語による歌曲・1	①発声法の総合的な習得Ⅰ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
18	各原語による歌曲・2	①発声法の総合的な習得Ⅱ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
19	各原語による歌曲・3	①発声法の総合的な習得Ⅲ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
20	各原語による歌曲・4	①発声法の総合的な習得Ⅳ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
21	各原語による歌曲・5	①発声法の総合的な習得Ⅴ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
22	各原語による歌曲・6	①発声法の総合的な習得Ⅵ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
23	各原語による歌曲・7	①発声法の総合的な習得Ⅶ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
24	各原語による歌曲・8	①発声法の総合的な習得Ⅷ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
25	各原語による歌曲・9	①発声法の総合的な習得Ⅸ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
26	各原語による歌曲・10	①発声法の総合的な習得Ⅹ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
27	各原語による歌曲・11	①発声法の総合的な習得Ⅺ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
28	各原語による歌曲・12	①発声法の総合的な習得Ⅻ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
29	各原語による歌曲・13	①発声法の総合的な習得のまとめ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得		0
30	後期まとめ	①発声法のまとめ ②各原語の発音についてのまとめ ③各原語による歌曲の楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ		0

平成30年度

科目名	ピアノⅡ（主科）		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派、印象派、近現代の作品にも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。</p>			
達成目標	<p>〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏技術等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派、印象派等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。</p>			
受講資格	短大音楽科2年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	古典派、ロマン派、近現代の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	特になし			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	火曜日Ⅰ限、水曜日Ⅰ限 No.1音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

平成30年度

科目名	ピアノⅡ（主科）		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	深谷 悠里絵			
開講期	通年			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派、印象派、近現代の作品にも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。</p>			
達成目標	<p>〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏技術等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派、印象派等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。</p>			
受講資格	短大音楽科2年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	古典派、ロマン派、近現代の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	特になし			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日 12:00~12:50 No.1音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

科目名	ピアノⅡ（副科）		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派や近現代の作品などにも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。</p>			
達成目標	<p>〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 〔履修カルテ評価項目〕 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏テクニック等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派や近現代等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。</p>			
受講資格	短大音楽科2年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	古典派、ロマン派、近現代等の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	特になし			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	火曜日Ⅰ限、水曜日Ⅰ限 No.1音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	基礎技術の学習1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	0
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	0
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0
9	基礎技術の学習9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0
10	基礎技術の学習10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0
11	演奏表現1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0
12	演奏表現2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0
13	演奏表現3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
14	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0
15	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	0
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。正確な読譜と表現法。	0
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。	0
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。	0
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。	0
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。 試験曲を決定し、正確な読譜を進める。	0
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の正確な読譜。	0
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	0
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	0
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	0
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	0
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	0
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	0
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	0
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	0
30	演奏表現 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	0

平成30年度

科目名	ピアノⅡ（副科）		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修
担当教員	深谷 悠里絵			
開講期	通年			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 【授業全体の内容の概略】 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派や近現代の作品などにも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。</p>			
達成目標	<p>【授業修了時の達成課題】 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏テクニック等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派や近現代等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。</p>			
受講資格	短大音楽科2年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	古典派、ロマン派、近現代等の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	特になし			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	火・水・木 IV時限 No.1音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

平成30年度

科目名	管楽Ⅱ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	南川 肇		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード、古典の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。		
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。 〔履修カルテの評価項目〕 ①管楽器演奏テクニックの問題点がある程度把握し演奏技術の訓練に生かす事ができているか。 ②楽曲を通してその奏法をある程度理解できたか。 ③ピアノ伴奏者とのアンサンブルが良くできているか。		
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	実技試験 90% 平常点 10%
教科書	音及び基本奏法に関する教本をレパートリーと併用して使用する。		
参考書	『30のカプリス』カヴァリーニ他		
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。		
オフィスタイム	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	基礎練習①	支えと音の方向性について	0
2	基礎練習②	ソルフェージュの重要性	0
3	基礎練習③	演奏時の舌の位置	0
4	基礎練習、前期試験に向けて①	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア	0
5	基礎練習、前期試験に向けて②	低音域のポジション	0
6	基礎練習、前期試験に向けて③	高音域のポジション	0
7	基礎練習、前期試験に向けて④	“声楽”に学ぶ意味	0
8	基礎練習、前期試験に向けて⑤	“のど”のチューニング	0
9	基礎練習、前期試験に向けて⑥	“頭声”と楽器の音の関係	0
10	基礎練習、前期試験に向けて⑦	“胸声”と楽器の音の関係	0
11	基礎練習、前期試験に向けて⑧	fの出し方	0
12	基礎練習、前期試験に向けて⑨	Pの出し方	0
13	基礎練習、前期試験に向けて⑩	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法	0
14	基礎練習、前期試験に向けて⑪	ことばを発音するが如く吹くには	0
15	基礎練習、前期試験に向けて⑫	前期のまとめ	0
16	基礎練習、後期試験に向けて①	“弦楽器”に学ぶ意味	0
17	基礎練習、後期試験に向けて②	ポウイングのupとdownを取り入れる	0
18	基礎練習、後期試験に向けて③	弓の速度と息の速度	0
19	基礎練習、後期試験に向けて④	弦楽器のヴィブラートに学ぶ	0
20	基礎練習、後期試験に向けて⑤	タンキングと弓使い	0
21	基礎練習、後期試験に向けて⑥	アーティキュレーションを立体的に表現するには	0
22	基礎練習、後期試験に向けて⑦	フランス風toneについて	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
23	基礎練習、後期試験に向けて⑧	ドイツ風toneについて	0
24	基礎練習、後期試験に向けて⑨	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには	0
25	基礎練習、後期試験に向けて⑩	後期試験に向けて最終チェック	0
26	基礎練習、後期試験に向けて⑪	後期試験に向けて最終チェック	0
27	基礎練習、後期試験に向けて⑫	後期試験に向けて最終チェック	0
28	基礎練習、後期試験に向けて⑬	暗譜の確認	0
29	基礎練習、後期試験に向けて⑭	暗譜の確認	0
30	基礎練習、後期試験に向けて⑮	演奏と評価	0

科目名	伴奏法		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 伴奏の役割を学び、アンサンブルの重要性の基本を学ぶ [授業全体の内容の概要] 歌曲、合唱曲などの伴奏を中心として呼吸、バランス等を学修する。教職必修科目でもあるので、中学校教材の中から、また音楽療法の実習もふまえて選曲をしていく。簡単なコードネームによる伴奏付けも学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 伴奏の役割の大切さを理解する。コードネームによる伴奏を実践できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①授業毎の課題を消化できるか。 ②歌詞の意味を理解できるか。 ③自分で考えて演奏をしているか。			
受講資格	短大音楽科2年	成績評価 方法	実技試験80点、平常点20点	
教科書	特になし			
参考書	中学校教科書（音楽）、その他。			
学生への要望	実技を伴う授業なので、課題の練習をすること。音楽のセンスを養ってほしい。			
オフィスタイム	火曜日 I 限、水曜日 I 限 No.1 音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	導入	年間の授業計画を説明し、伴奏の役割の大切さを認識させる。次回の授業の課題を出す。		0
2	滝廉太郎作曲「花」の演習1	前回の授業で出した課題「花」を弾かせる。曲全体の注意点を説明し、学生それぞれに適切なアドバイスを与える。詩の解釈をする。		0
3	滝廉太郎作曲「花」の演習2	前回に引き続き「花」を演習する。ある程度弾けるようになった学生は終了させる。8割以上の学生が弾けるようになったことを確認し、次の課題を与える。		0
4	滝廉太郎作曲「花」3、中田章作曲「早春賦」の演習1	「花」が合格していない学生は引き続き学習させる。他の学生には中田章作曲「早春賦」を演習させる。		0
5	中田章作曲「早春賦」の演習2	「花」を全員終了したことを確認し、「早春賦」の解釈と注意点を説明する。その後演習させる。		0
6	中田章作曲「早春賦」の演習3	先週に引き続き注意を与えながら演習をさせる。		0
7	中田章作曲「早春賦」の演習4	「早春賦」を先週に引き続き演習させる。学生それぞれに、アドバイスを与えながら弾かせる。終了した学生には次の課題、中田喜直作曲「夏の思い出」を与える。		0
8	中田章作曲「早春賦」5、中田喜直作曲「夏の思い出」の演習1	「早春賦」を全員終了したことを確認し、「夏の思い出」の詩の解釈、曲の解釈、注意点を与える。		0
9	中田喜直作曲「夏の思い出」の演習2	「夏の思い出」を演習させる。それぞれに適切な注意、アドバイスを与える。次の課題、成田為三作曲「浜辺の歌」を与える。		0
10	中田喜直作曲「夏の思い出」の演習3	日本歌曲についての解説と演習。		0
11	中田喜直作曲「夏の思い出」4、成田為三作曲「浜辺の歌」の演習1	「夏の思い出」を全員が終了したことを確認し、次の課題、成田為三作曲「浜辺の歌」の演習をする。曲の解説、伴奏をする上での注意点を説明する。		0
12	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習2	「浜辺の歌」の演習をさせる。学生各自に適切なアドバイスをしながら、授業を進める。		0
13	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習3	前回に引き続き「浜辺の歌」の演習をする。2週間後に行う小テストについての説明と、課題を与える。課題はこの時点での学生のレベルを考慮し、2～3曲を		0
14	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習4	前回に引き続き演習を進める。		0
15	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習5	夏期休業中の課題「郡山女子大学校歌」を出す。		0
16	校歌（深尾須磨子作詞、一宮道子作曲）の演習1	郡山女子大学の「校歌」の歌詞の解釈、演奏の注意点を考えさせて、演習をする。		0
17	「校歌」の演習2	前回に引き続き校歌の演習を継続する。		0
18	「校歌」の演習3、山田耕柞作曲「赤とんぼ」の演習1	校歌が終了した学生は「赤とんぼ」の演習に入る。歌詞、曲の解釈を考えさせて、演奏の注意点を説明する。		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
19	「校歌」4、「赤とんぼ」の演習2。簡単な旋律に伴奏をつける学習1	前回は引き続き「校歌」、「赤とんぼ」を演習させる。簡単な旋律に伴奏をつけることを学修する。		0
20	「校歌」5、「赤とんぼ」3の演習、伴奏付け2	「校歌」をほぼ全員終了したことを確認し、「赤とんぼ」を演習させる。授業の後半で、簡単な伴奏付けを行う。		0
21	「赤とんぼ」の演習4、中田喜直作曲「雪の降る街を」の演習1、伴奏付け3	「赤とんぼ」を終了した学生には、次の課題として中田喜直作曲「雪の降る街を」を与える。簡単な伴奏付けを行う。		0
22	「雪の降る街を」の演習2、伴奏付け4	「雪の降る街を」の歌詞の解釈、伴奏をする上での注意点等を考えさせ、説明を加える。その後、演習に入る。伴奏付けは少しずつ移調も試みる。		0
23	「雪の降る街を」の演習3、伴奏付け5	前回は引き続き「雪の降る街を」を学生各自にアドバイスをしながらか、授業を進める。伴奏付けは移調ができるように、考えさせる。		0
24	「雪の降る街を」の演習4、伴奏付け6	「雪の降る街を」をほぼ全員終了したことを確認する。伴奏付けはなるべく多くの課題を実践させる。		0
25	簡単な童謡の演習1、伴奏付け7	体や指を使って、歌いながらできる童謡や歌を学修する。伴奏付けは引き続き多くの課題をこなすようにする。		0
26	簡単な童謡の演習2、伴奏付け8	前回は引き続き、童謡の伴奏を弾くことを継続させる。伴奏付けも多様な形式の課題をとにかく多く演習させる。		0
27	童謡の演習3、伴奏付け9	聞いたことはあるが弾いた事はない曲、新しい曲等を選んで演習させる。伴奏付けは引き続き行う。		0
28	童謡の演習4、伴奏付け10	前回は同じく、継続して演習をさせる。卒業試験の演奏（伴奏）についての質問、あるいは実際に演奏をさせて指導をする時間を取る。		0
29	授業の理解の確認	1年間の授業の感想、反省、意見などを聞く。まとめの課題を出す。		0
30	授業のまとめ	1年間の確認とまとめ		0

平成30年度

科目名	ソルフェージュⅡ		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修
担当教員	南川 肇、深谷 悠里絵			
開講期	通年			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 各専門の分野をより向上させる為に、音楽の基礎であるソルフェージュの能力を高める事を目標とする。 〔授業全体の内容の概略〕 単旋律、2声、4声の聴音を行い、音を聴き取り楽譜にする能力を養う。また、新曲視唱では正しい音程やリズムを理解し、歌えるようにする。年間を通じて能力別クラスで授業を行う。</p>			
達成目標	<p>〔授業修了時の達成課題〕 単旋律、2声、4声の聴音、及び、新曲視唱ができるようになること。 【履修カルテ評価項目】 ①リズム、単旋律聴音に於いて出題された課題の80%を聴き取る事ができましたか。 ②和声、複旋律の聴音を聴き分ける事ができましたか。 ③正しい音程やリズムで歌えるようになりましたか。</p>			
受講資格	音楽科2年	成績評価 方法	学期末テスト80点、平常点20点	
教科書	印刷物の配布			
参考書	特になし			
学生への要望	授業の時間のみでなく、日頃より楽譜を正確に読み、音をよく聴く習慣を身に付けて欲しい。			
オフィスタイム	火曜日～木曜日 12:00～12:50 No.1 音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

平成30年度

科目名	合唱Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	磯部 哲夫, 深谷 悠里絵		
開講期	通年		
授業概要	<p>「授業の目的・ねらい」 合唱の一員であると言う責任感の基、音楽の基本であるアンサンブルを理解すると共に、ハーモニー感を養い、歌詞を美しく歌うことにより品位ある合唱の響きを追求する授業です。 「授業全体の内容の概要」 授業は一、二年合同で行います。一年次での基礎を踏まえ合唱作品の名曲に触れます。</p>		
達成目標	<p>「授業修了時の達成度」 合唱音楽を通して将来に役立つ音楽性を身につけます。</p> <p>【履修カルテの評価項目】 ①音程リズムを正確に歌う事が出来るか。 ②他と協調し、アンサンブルがスムーズにできるか。 ③楽曲を正しく理解しているか。</p>		
受講資格	音楽科2年	成績評価 方法	実技試験80%、平常点20%
教科書	合唱作品		
参考書	なし		
学生への要望	合唱の一員であるという責任と自覚を持って臨んで下さい。		
オフィスタイム	月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No. 1音楽科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

平成30年度

科目名	合奏Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 4単位 選択
担当教員	南川 肇・増子 仁保			
開講期	通年			
授業概要	<p>「授業の目的・ねらい」 高大連携授業として附属高校音楽科と合同で行う。前期に創立記念式典、高校音楽科の定期演奏会、後期に短大音楽科の定期演奏会に出演する。 「授業全体の内容の概要」 I、Ⅲ期に学習した基礎の上に立ち、Ⅱ、Ⅳ期は卒業式における奏楽曲の練習によってオーケストラ演奏の実際を学ぶ。</p>			
達成目標	<p>「授業修了時の到達度」 合奏を学ぶ事により、アンサンブル能力を身につけ合奏Ⅱにスムーズに入っていけるようにする。</p> <p>【履修カルテ評価項目】 ①基本的楽器の奏法をマスターしているか ②音程、リズムなど合奏に必要な基礎能力を身につけているか ③他と協調し美しいアンサンブルが出来るか</p>			
受講資格	音楽科1年		成績評価 方法	実技試験80%、平常点20%
教科書	君が代、記念式典歌、祝典序曲、吾子よ、応答歌、校歌、その他の楽曲。			
参考書	なし			
学生への要望	オーケストラの一員としての責任と自覚を持って取り組むこと。			
オフィスタイム	火～金曜日 12:00～12:50 音楽科第1研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

平成30年度

科目名	アンサンブル		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] アンサンブルの演奏方法、コミュニケーションの取り方、練習方法などのテクニックを身につける。 [授業全体の内容の概要] 様々な編成の室内楽を、個々のレベルに合わせ演奏する。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] アンサンブルのテクニックを身につけ、様々な編成の室内楽の演奏法ができるようになる。 [履修カルテの評価項目] ①室内楽の演奏方法を理解できたか。 ②他の声部をよく理解し、それに合わせた演奏ができたか。 ③他の奏者に、方向性を示すことができたか。			
受講資格	音楽科2年生	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	個々のレベルにあった、アンサンブル曲。			
参考書	無し			
学生への要望	室内楽の奏法を身につけ、音楽一般の演奏力を伸ばしてもらいたい。			
オフィスタイム	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	ガイダンス	アンサンブルに対する心構えや指導方針の説明		0
2	基本練習①	ブレス、アインザッツの重要性と方法。		0
3	基本練習②	ブレス、アインザッツの重要性と方法。		0
4	基本練習③	テンポ設定と音楽表現。		0
5	基本練習④	テンポ設定と音楽表現。		0
6	実践①	個々のレベルと編成にあった選曲。		0
7	実践②	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。		0
8	実践③	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
9	実践④	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
10	実践⑤	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
11	実践⑥	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
12	実践⑦	曲の分析とその表現方法。		0
13	実践⑧	曲の分析とその表現方法。		0
14	実践⑨	発表に向けての準備。		0
15	発表	授業の成果発表。及び評価。		0
16	実践⑩	個々のレベルと編成にあった選曲。		0
17	実践⑪	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。		0
18	実践⑫	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
19	実践⑬	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
20	実践⑭	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
21	実践⑮	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
22	実践⑯	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
23	実践⑰	個々のレベルと編成にあった選曲。		0
24	実践⑱	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
25	実践⑲	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
26	実践⑳	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
27	実践㉑	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
28	実践㉒	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
29	実践㉓	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。		0
30	発表	研究成果の発表。及び評価。		0

平成30年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修 /短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上をはかる。音楽史等の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。</p>			
達成目標	<p>[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲の深い理解のもと、自己の表現を修得する。</p> <p>[履修カルテの評価項目] ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができていのかどうか。 ②いまままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。</p>			
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	小論文40%、演奏60%にて評価	
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。			
参考書	音楽史、世界史等に関する書籍			
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。			
オフィスタイム	火曜日 I 限、水曜日 I 限 No.1 音楽科研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

平成30年度

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修 /短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	南川 肇		
開講期	通年		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上をはかる。音楽史等の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。</p>		
達成目標	<p>[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲の深い理解のもと、自己の表現を修得する。</p> <p>[履修カルテの評価項目] ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができていのかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。</p>		
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	小論文40%、演奏60%にて評価
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。		
参考書	音楽史、世界史等に関する書籍		
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。		
オフィスタイム	火曜日から金曜日12:00~12:50 No.1 音楽科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容

平成30年度

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修 /短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	磯部 哲夫		
開講期	通年		
授業概要	<p>[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上をはかる。音楽史等の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。</p>		
達成目標	<p>[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲の深い理解のもと、自己の表現を修得する。</p> <p>[履修カルテの評価項目] ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができていかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。</p>		
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	小論文40%、演奏60%にて評価
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。		
参考書	音楽史、世界史等に関する書籍		
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。		
オフィスタイム	月曜日から金曜日12:00~12:50 No.1 音楽科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容